

# みんなのための学会を目指して～聴覚障害者の立場から Toward Accessible Academic Meeting for Deaf and Hard-of-hearing People

井上 正之†  
Masayuki INOUE

## 1. まえがき

聴覚障害者は、視覚障害者と共に「情報障害者」として学会に参加する上で数多くの制約を受けている。本報告では、聴覚障害者が学会に参加していく上での現状について概観すると共に、「みんなのための学会」を実現していくための課題について述べる。

## 2. 聴覚障害者と学会とのかかわりの現状

大学あるいは企業に所属する研究者であれば、さまざまな学会の場において、研究発表を行うとか聴講るとかしていくことは、自らの研究を進めていく上で非常に重要である。当然のことではあるが、こうした学会においては「音声ベース」でのやりとりがメインになる。そのため、音声ベースでのコミュニケーションに問題をかかえる聴覚障害者が学会に参加していくには数多くの問題が生じることになる。

聴覚障害者が学会に参加していく上での問題をクリアしていくためには、従来は「個人の努力・工夫」によるところが大であった。たとえば、

- ・ 発表の際、座長にあらかじめお願いして質疑応答の際に筆談してもらう
- ・ プレゼンテーションや資料（予稿集、論文集など）など視覚的な手段を十二分に活用する
- ・ 手話通訳やノートテイカーの手配を行う

などである。しかし、前述したとおり、学会においては自らが発表する一方向的なものだけでなく、他の研究を聴講し時には質疑応答などの討論にも参加していく等双方向的なかかわりが重要となる。その意味では、手話通訳やノートテイカーを配置することが現時点でももっとも有効である。

とはいえ、手話通訳やノートテイカー等の手配にあたって、

- ・ 学会での情報保障は公的派遣の対象から外れていることが多く、経費負担の問題が生じる
- ・ 学会の開催場所が、一般に全国各地にわたっており、自分の地元以外で情報保障の手配を行おうとするとかなりの労力を要する
- ・ 学会などのような高度な専門的内容に対応できる人材（手話通訳など）が限られる

などの問題点がある。

聴覚障害者で博士号を取得したものが生まれつき・中途失聴者などすべてあわせても十数名程度程度しかいないのは、こうした現状と決して無縁ではないだろう。

## 3. みんなのための学会へ向けて

前節で述べた現状の中で、電子情報通信学会・福祉情報工学研究会がいち早く聴覚障害者も含めたさまざまな障害者に対して開かれた学会を目指していることは非常に画期的なことである[1]。こうした試みが一過性のもので終わらず広く定着していくためにも、当事者を含めた関係者の継続的な取り組みが重要である。

聴覚障害者の立場から、学会が開かれたものとなるための課題はさまざまであるが、ここでは以下の二点をあげておく。

(1)高度な専門的内容に対応できること  
手話通訳であれ PC 文字通訳であれ、多種多様にわたる高度な専門的内容に対応しなくてはならない。特に、さまざまな専門用語をどう処理していくかがポイントとなる。こうした問題に対処するには、事前の資料提供や打合わせを十分に行う・専門用語をどう手話化するかについて当事者と意識あわせする、等が必要となる。

(2)聴覚障害者の様々なニーズに柔軟に対応できること  
聴覚障害者によっては、手話通訳が必要なもの・PC 文字通訳が必要なもの・双方とも必要なものなど様々であり、情報保障の手段を複数用意しておくことが望ましい。また、聴覚障害者にとっては、長時間手話通訳などを集中して見ることが難しいため、手元で PC 文字通訳のログを参照したりできることが望ましい（PC 文字通訳のログの二次利用については[2]にあるように色々な議論があるため、学会としての対処方針を考えていく必要もある）。また、一般に、学会において情報保障を手配する場合、あらかじめ日時を指定することが多い。しかし、特に FIT のような大規模な学会では、その時・その場の状況に応じてあちこちへ移りたいというケースもあり、こうしたニーズに柔軟に対応できることも望まれる。

## 4. あとがき

本報告では、聴覚障害者が学会に参加していく上での現状の問題点と今後へ向けての課題について述べた。課題の解決は容易なことではないが、「みんなのための学会」の実現に向かって少しずつでも進んでいくことを切に望むものである。

参考文献：

[1] <http://www.ieice.org/~wit/tataki/guideline5.html>

[2] <http://www006.upp.so-net.ne.jp/haruyasu/zyk-h.html>